

5月7日の議会臨時会で、 議員の役職が次のとおり決まりました。

(敬称略)

議 長		萩原 由一		
副 議 長		江田 宏子		
議会運営委員会	委 員 長	山崎 栄喜		
	副 委 員 長	山浦 登		
	委 員	勝山 正	土屋喜久夫	
	議決権のない会議出席者	議 長	副議長	
常任委員会	総務民生文教 常任委員会	委 員 長	土屋喜久夫	
		副 委 員 長	山本 隆樹	
		委 員	江田 宏子	勝山 卓
	産 業 建 設 常 任 委 員 会	委 員 長	勝山 正	
			山崎 栄喜	
		委 員	萩原 由一	芳川 修二
			丸山 邦久	
	予 算 決 算 常 任 委 員 会	委 員 長	(総務民生文教常任委員長)	
		副 委 員 長	(産業建設常任委員長)	
		委 員	議長・正副委員長以外の議員7人	
		議決権のない会議出席者	議 長	
	議会選任監査委員		勝山 卓	

議 会

No.218



自然劇場

議会に対するご意見
をお聞かせください。

お電話の場合

☎82-3111(内線150番)

E-mailの場合

gikai@vill.kijimadaira.lg.jp

記事訂正のお知らせ

議会だより4月号(No.217) 31ページ
『中島瑞穂神社』
となっていました。が、
『中島水穂神社』
の誤りです。
お詫びし、訂正します。

お知らせ

▽次回議会定例会の開催予定
6月定例会 5月30日(木)
～6月14日(金)

▽請願・陳情の受付締切日
5月23日(木)

請願・陳情の受付締切日は、議会
開会日1週間前です。

提出に際し、開催日等をご確認の
うえ、早めに議会事務局に提出して
ください。

なお、直接、議会事務局にご持
参のうえ、事務局員に説明をお願い
します。

議会だよりモニター募集

議会では、議会だよりの一層の充実を図るため、議会だよりモニターを募集します。
活動内容や応募希望など詳細は議会事務局までお問い合わせください。

発行：木島平村議会
編集：議会だより編集委員会

平成31年3月第1回定例会 行政事務 一般質問要旨

3月12日(火)

村政に対して、7人の議員が質問しました。

紙面の都合上、質問順と掲載順が異なっております。ご了承ください。

なお、要旨は質問者が自らまとめたものです。(傍線部分含む)



萩原 由一 議員

1. 公約実現に向けて どのように取り組むか

質問

今年2月の村長選挙で、「健康・福祉、子育て・教育・くらし・産業・行政」と公約を挙げられたが、その中の産業について伺う。

① 「収益性の高い作物」とあるが、どのようなものを考えているか。

② 「旨い木島平米のブランド化により、他の農産物の付加価値を高める」とあるが、どのような作物を、どのように付加価値を高めるか。

③ 「観光振興局を中心に各業種の連携を図り、誘客や交流人口増による経済循環に取り組み」とあるが、観光振興局をどのようにもっていくか。

④ 「インバウンドなど新たな観光客の誘致」とあるが、どのように進めていくか。

⑤ 「ファームス木島平は村民合意の基に活用」とあるがどのような村民合意を得るか。

村長

① J Aとの振興作物3か年計画のもと、アスパラ、きゅうり、ズッキーニなど9品目への助成制度の他、白ネギについては「水稲の収穫後の作業である」、「露地野菜のなかでも小さい面積で高所得が期待できる」、「水稲農家の所有する機械での汎用性が大きい」ため、振興作物補助事業に白ネギを加え、J Aと共に生産体制の確立、そしてブランド化を目指す。

② 全国各地においてブランド化戦略が活発化している。

ブランド化を図るうえで、村農産物が常に消費者の近くにあることが必要。その観点からもブランド化戦略の見直しは必要と認識している。

木島平米だけではなく、その他の農産物もブランド化をめざす上では「農の村 木島平」

そのものをブランド化していくことが重要。

木島平米のふるさと納税も好調に推移している。

「木島平」は「ああ、旨いお米の村ですね。」という声が聞こえ、大変うれしい話である。農業と観光がそれぞれ補完しあいながら継続的に発展していくような形でブランド化を進めたい。

③ 今まで観光事業関係者だけで行ってきた「観光地域づくり」ではなく、農・商・工・観の更なる連携による「観光地域づくり」を行うプラットホーム(土台)として、その役割を果たしていきたいと考えている。

観光交流人口の拡大により、宿泊施設の地元農家・地元商店からの食材調達率を増やす必要がある。

また、地域の伝統文化・風習等に人気が集まる仕掛けが必要。旅行事業にも着手している。

④ 訪日外国人旅行者への対応については、昨年12月から木島平観光株式会社を運営する、パノラマランド木島平を中心に、主に北京、上海、大連の旅行会社と連携し、今シーズン約400泊の宿泊実績となっている。それに伴いスキー場では英語、中国語の案内看板等をあらか

じめ設置し、また中国人スタッフを採用し、その対応に当たってきた。今後は個人旅行の需要が多くなる事が予想され、地域の伝統文化の体験メニューの充実や、民泊需要もあることから、観光振興局を中心とした受け入れ態勢の整備を早急に進めていく。中国の旅行会社等との良好なパートナーシップを構築していきたい。

⑤ 議会での討論や説明会はもちろん、※パブリックコメントなど様々な方法があると思うが、まずは、現時点で取り組んでいる事業や、来年度の事業実績を通じて評価を受けることが、村民の合意に繋がっていくものと考えている。

※パブリックコメントとは

公的な機関が、規則あるいは命令などを制定しようとするときに、広く公に(パブリック)、意見・情報・改善案など(コメント)を求める手続きをいいます。

公的な機関が規則などを定める前に、その影響が及ぶ対象者などの意見を事前に聴取し、その結果を反映させることによって、よりよい行政を目指します。



勝山 卓 議員

1. 村政の未来図にUNSD

質問

村長選に再選され、政権公約を挙げられているが、政策は面や点の議論だけでなく、村の将来構想に向けた時間軸での政策議論が必要である。また、村の財政運営で最も大切なことは、持続可能な住民への行政サービスの提供、だと思っっている。本年度は、新たなステージに向けた計画策定の年であり、時間軸の中での次期政策、未来の備え、展望について伺う。

村長

総合振興計画は、村が行う事業だけでなく、住民要望に基づく集落振興にも随時見直しを行い、その都度財政計画も将来的な見地から計画を立て、各種事業を進めている。また、「地方創生総合戦略」は、平成31年度が最終年度で、産業振興や若者の移住定住、子育て環境の充実に具体的な目標を掲げ、持続可能な村政、持続可能な社会の実現のために取り組んでいく。

武田総務課長・高木産業課長

(各種基本計画の進捗状況を説明。)

再質問

時代の変化に先駆けた持続可能な行政サービスの提供には、財源の保障が必要になる。そのために、規模の適正化、財源の再分配ということが求められている時代に入っているのではないか。

村長

公共施設だけでなく、社会保障費等は増加を続け、将来的な村の財政状況は、決して楽観できないが、これからも産業振興、村民福祉の向上に必要な事業は、様々な財源を考えながら、積極的に取り組み、将来の財政に備えていく。

2. 一般社団法人 木島平村観光振興局について

質問

振興局は、村主導で設立した法人。設立時の発起人、社員でもある。事業運営にあたっては、村の責任は非常に重い。各産業の連携メリットの仕組み作りが必要だ。

村長

地域振興の先導役ともなる振興局への行政の関わりは大変重要。当面、村が積極的に関わり、自立した団体を目指したい。

高木産業課長

旅行商品に多くの村民に関わって頂くことが重要だ。そのプラットフォーム（基盤や土台）機能を振

興局が果たすべきと考えている。

再質問

商品開発には異業種間連携も重要だ。行政間連携だけでなく、民間連携も大切ではないか。

高木産業課長

観光関係団体との連携をこれからも強化していきたい。

3. 農の拠点施設「ファームス木島平」の運営と6次産業化の推進について

質問

実施計画では今後も多額の費用が必要とされ、課題は山積し、引くに引けない状況にある。村直営となり、1年が経過しようとしている。また6次化の推進状況は。

村長

有効活用した方が有利と判断。そのためには、当面村が直接管理をし、その間に施設の不備などところを整備したいと考えている。

丸山産業企画室長

リニューアルオープンした昨年7月から3月末までの客数は約2万9千人、売り上げは約2千380万円。

本事業の設定目標来場者数は、年間5万8千人で、平成29年度実績は3万3624人、57.97%。6次産業推進協議会活動と6次産業推進の活動を停滞させてしまっ

たことについては、事務局として深くお詫び申し上げる。

3. 森林管理・整備事業の推進について

質問

①「森林経営管理法」（所有者が放置している森林を市町村が代わって公的に管理する制度）が4月1日に施行される。これからの体制作りなど、どのような対応を考えているか。
②「ふう太の森」伐採後の植林整備等の状況は。

村長

①放置または放置が懸念される民有林を、循環資源として有効に活用することを目的とし、村では、調布市などに森林や山を活用した交流事業を提案。専門人材の確保など、広域での対応を進めていく。

高木産業課長

②北信州森林組合との森林整備事業委託契約を平成26年4月1日から平成31年3月31日まで締結。平成26年時点で預り証（販売収入額）1094万4655円、間伐収入が21万5773円。事業費負担が455万7990円。平成26年度から31年度まで植栽としてカエデ、カラマツ、ナラ、下草刈り、間伐等を実施。



江田 宏子 議員

1. 職員の育成と人材活用は

質問

①職員個々が「各分野の先進地をめざす意気込み」で取り組むことが一番の村民益で、村外へのアピールにもつながる。

職員の育成(新人教育・自己啓発・相互啓発・部下の育て方・スキルアップなど)について見解を伺う。

②村づくりに必要な能力を身に付ける職員や住民を増やすことが、持続可能な村づくりにつながる。

職員のみならず、村民のスキルアップのサポート、既に各種専門的な経験や技術のある方の登録・活用(村出身者含め、村内外間わず)を考えてはどうか。

村長

①研修計画、体制は、総務課が担当。研修や指導を受ける中で、職員自身が、村民益、村民福祉・サービスの向上につながるよう、いかに自覚して意識を持つかが大事。

また、職員の育成は、若手職員だけでなく、係長、課長等の基本的な姿勢が一番大事であり、庁内会議、課長会議等でも再三伝えている。

②既に多くの方の御協力をいただいているが、今後も村外在住者含め、村づくりにご理解をいただくよう努めていく。

また、村または村の機関の職員として、今後、人材を求めていくことも必要だと考える。

武田総務課長

②住民対象の資格取得については、どの程度要望があるか、意見を聞きながら進めたい。

2. ファームス木島平の運営は

質問

①「関係部署が混在し、指示系統が曖昧」(12月一般質問)との指摘に、「一体的な施設管理ができる体制を新年度予算編成の中で考えたい」と答弁された。新年度の運営体制に関する検討状況を伺う。

②改善が見込めない施設に多額の修繕費、施設整備費、維持管理費を注ぎ込むことは納得しがたい。今後の運営計画・経営計画等を村民に示し、理解を求める必要がある。見解を伺う。

丸山産業企画室長

①4月以降も一定期間は、施設全体の維持管理、店舗運営の支援、修繕計画策定などは「産業企画室」で進め、将来的な施設利用計画や提案イベントの開催、誘客や道の駅機能の充実は「産業課と産業企画室」が一体となり進める予定。

31年度内には一体的な施設管理を進めたい。

②施設全体の維持管理費や修繕箇所の検討、店舗運営の検証を継続中。1年間の運営実績の検証と施設修繕等の検討を整理し、31年度中には、施設全体の維持管理運営計画と各店舗の経営目標などを示し、施設の整備計画も提案したい。

村長

①全体的な指示・命令系統は、31年度にはしっかりと一本化できるようにしたい。

3. 観光振興局について

質問

観光地域づくり⇨観光推進の要として発足したが、動きが見えづらい。地域一丸となって進めるべき事業で、村民の理解や協力が必要。副村長(代表理事)からわかりやすい説明を。

①発足から今までの活動状況と課題。
②今までの観光協会と違う点。
③今後の事業内容、事業計画など。
④今後の運営体制、指示系統、実働部隊について。

副村長(観光振興局代表理事)

①振興局内に専門委員会を設置し「誘客宣伝、情報発信、旅行商品特産品開発、イベント・事業」の5部会で、各種事業の研究検討を行っている。課題は、新たに取り組んでいる

旅行業。村の特性を活かし、他社と差別化できる旅行商品の開発。

②観光関係だけでなく、農業・商業・工業等も連携し、観光を「手段」として、全ての業種が一緒に地域経済の活性化をめざすことが目的。地域全体の経済が潤うための役割をいかに果たすかが重要。

③外国人観光客を呼び込むなど、新たな客層の獲得にも力を入れたい。
④より多くの方に関わっていただく体制をつくり、事業計画を検討。職員の募集も行い、新しい組織で新たな事業展開を図る。

高木産業課長

①活動状況は、主にこれまでの観光協会の事業をベースにした取り組み等。冬シーズン前の誘客宣伝、スキーツアーの受入対応、インバウンドの商談、津南ランタンプアーなど。

質問

過去にも様々な検討、計画策定等がされてきたが、どれも取り組みが中途半端で成果に結び付いていないと言いがたい。そのような実態や原因をどう捉えるか。振興局の5つの部会で同じ轍を踏まないために、どのようなことが必要だと思うか。

副村長

できることを一つ一つしっかり取り組みながら次に進めていくことが大事。今までは場当たり的だったので、反省を活かしながら、しっかり進めたい。



土屋喜久夫 議員

1. 2期目の村政の推進方策は

質問

村民の意思を確認できた「村長選挙」は意義がある。

①選挙結果の受け止めは。

②公約を具体的にどう進めるか。

③村政の推進体制はいかがか。

村長

①今は縮減社会とも。その中で村民の幸福追求の重責を担った。その重い職責を果たしたい。

②子育て環境・教育環境の質の向上は、若い移住定住にとって重要な要素。ふるさと教育と同時に、次世代対応の教育環境を整える。

③推進体制は、村職員、村に関わる機関、そして限りある人材は、村外も含めて有能な人材を確保、配置していく。

教育長

②家庭、学校、地域がリンクし、村への「誇り」と「愛着」をもって「ひとづくり」に繋がる子育て教育環境づくりが必要。

再質問

①畑作新規就農の標準的な経営指針等、検討されているか。木島

平米を、村ブランドの広告塔にできないか。

⑧支援学校との副学籍はどうか。新聞報道でサケの放流の話題があるが、「カムバック木島平」のイメージで、放流事業に参加できないか。

村長

①水稲経営の条件が整わず、新規就農の場合、アスパラ、ズッキーニ、キュウリ等、畑作物に誘導している。特産品は、ワイン、ヤーコン商品など作ったが、定着しない。消費者ニーズに合った商品の開発が必要。最終的に農業振興につながり、相乗効果を期待する。

②サケの放流は、遡上そじょうが少なく、子供たちの気持ちを考え、中止した。

教育長

⑧副学籍は、山ノ内町で実施。希望で、両方の卒業証書を発行できる。小さい時から互いに交流し、尊厳を大事にすることを考えていきたい。

再々質問

消費者目線の加工品、ファームも消費者目線で見直すことが必要。地の利でなく、村内実例もある。遠くからの来訪実態もある。

丸山産業企画室長

消費者目線で、売れる物・欲しい物を加工品として取り組みたい。

2. 木島平村の基盤整備を

質問

①社会資本の基盤整備をいかに進めるか。

②競争力を上げる圃場はの整備は。

③環境森林贈与税の活用方法は。

村長

①生産圃場、森林等基盤整備は、担い手へ積極的に集積し、所得向上につなげたい。農家、山林所有者の意向調査等で、経営の転換を図る必要がある。

②圃場整備は、村と生産者のコンセンサス（複数の人の合意・意見の一致）がないと、整備が無駄になる。

③森林の適切な管理で、災害防止や地球温暖化防止、水源涵養たんようの公益的機能が増進される。村単独では対応が難しい。

④県が年次計画で、広域的ネットワークで対応していく。

高木産業課長

④圃場整備の生産者主体性とソバ振興の整合性についていかがか。

⑤水源涵養には、森林整備が必要では。

村長

④そばは、遊休荒廃地対策で、蕎麦粉、そばとして一体的な事業取り組みが必要。

⑤森林整備が一番大きな目的。森林環境譲与税は、山に親しむ、

森林に親しむ目的もある。

再々質問

姉妹都市調布市の森林譲与税を村に投入してもらう方策もある。事業方法の情報収集をされたい。

村長

当然、調布市に森林学習や村産材の活用を期待したい。

3. 地域をどう守っていくか

質問

集落機能の低下が懸念される。

①職員の地域への浸透方法は。

②集落担当者の地区ごとの役割と位置づけは？

③集落の組織が集約されているが、実態と問題点は？

村長

①職員が地域の一員として活動することを指導している。

②担当職員の役割は、地区の実情、課題や問題点を村と共有できる大きな役割。

③区の役職の負担軽減で見直しをしている。区ごとに実情が違うので、一緒に考えていきたい。

再質問

村民は全て役場職員として見ている。村としてもサポート体制をしっかりと。

村長

集落に入って意見を聞く勉強になるだろうし、村民の皆さんと直に交流ができる貴重な場となる。



勝山 正 議員

1. 地域「い」協力隊について

質問

- ① 地域おこし協力隊として活動する者の多くが20代、30代の若者。どのような動機で着任を希望し、着任後の生活はどのようなものなのか。そして、任期満了後の自分をどのように展望しているか。
- ② 受け入れ自治体として、協力隊員の公募の経緯や配置方針、協力隊員の受け入れに係る課題を明らかにすることを通じて、協力隊員と自治体、自治体内住民との望ましい関係の方向性はどうのように考えているか。
- ③ 起業・定住に向け、隊員と懇談をした経過はあったか。

村長

① 協力隊員を募集する際には、その都度、その目的に応じた募集要項により、応募者が自らその目的に賛同して応募している。最近では活動する目的をさらに絞った募集を行っている。そのため、一定の要件を満たすことにもなり、応募が少ない状況に。任期満了後の展望は、村に残つ

てもらおう前提ではあるが、最長3年任期中に、最終的には本人が決めている。

② 隊員が目的を持って活動できる体制づくりは、これまでも行ってきた。隊員本人の考えの違いが生じた場合にも、その都度話し合いを行ってきた。本人が希望する方向に導けるように希望を重視していく必要がある。

③ 任期満了前には本人の意向、村の要望等を話す機会を設けている。初期の目的どおり定住を望む隊員には、どんな方法があるのかを一緒に考えて模索をしているところであり、専門的な経験や技術を持った方には、引き続き村の応援をしてもらえればと考えている。

2. 国・県道の現状と課題について

質問

国道403号線は、北陸新幹線飯山駅とのアクセス道路としての機能や広域観光、地域の生活道路市町村を結ぶ産業振興路線でもある。地域活性化が期待される中、本路線の重要性を改めて確認するところである。

昨年12月21日、「403号線木島平地区改良整備促進協議会」が中心となり、県建設部長あてに、

道路改良と損傷の激しい箇所維持補修について陳情・要望活動を行った。中央橋から主要地方道飯山野沢温泉線との交差点までの間、道路幅が狭く、変則5差路や歩道もない区間など危険箇所も多くあり、交通の難所にもなっている。

① 県では中央橋からファームス木島平までの改良工事を計画されているようだが、進捗状況は。

② 今回、大町・柳久保・糠千地区の損傷の激しい場所の道路補修や拡幅について要望・陳情したが、県の方針や進捗状況は。

③ 今後も積極的に要望活動を行うと思うが、村としての考え、方針はどのようなものか。

村内の県道は、経年劣化によるアスファルトの損傷、路面の沈下等様々な問題を抱えている。403号線には「改良整備促進協議会」があり、要望活動が可能だが、県道には協議会がない。

④ 県道の改良促進や維持補修のため、県道にも改良促進協議会が必要と考えるが、村の考えは。

⑤ 県道における協議会設立に併せて、県に対し積極的に要望活動を行うべきと考えるが、村の考えは。

③ 国道は様々な形で利用されている大変重要な道路。昨年12月21日、村民と議員、行政とが一体

となつて取り組んだ要望活動は、県に対して強いアピールになったと考えている。今後とも積極的に活動をしていく。

④ ⑤ 3路線の県道も同様に、村の重要な生活路線・観光道路であることから、早急に「改良整備促進協議会」の形を立ち上げ、積極的な要望活動をしていくことが重要と考えている。

土屋建設課長

① 中央橋からファームス木島平までの改良工事の進捗状況は、平成27年に現在の道路を改良するという案で地元の合意となり、平成28年に地形測量、平成29年には、木島地区の変則5差路を含む全体の予備設計を実施した。平成31年には、路線測量及び詳細設計を予定。工事着工は、平成32年度を予定。

② 舗装修繕は、交通量を考慮しながら、県において優先順位を決め、順次対応しているとのこと。

④ ⑤ 県道3路線の「改良整備促進協議会」の設立は、現在事務局で、構成員や定款等を検討している。5月を目途に設立総会、6月に県に対し要望活動を行うたい。

村民の皆さんと力を合わせ、積極的な要望活動をしていくことが今後重要になる。



丸山勝敏 議員

1. 受動喫煙対策を強化、改正健康増進法について

質問

健康増進法の改正案は、他人のたばこの煙を吸いこむ受動喫煙を防ぐとの対策を強化するもので、学校や病院、行政機関などは屋内を完全に禁煙にし、敷地内の屋外では、喫煙所の設置が認められている。マナーの問題として捉えられてきた受動喫煙が法律で規制されることで、多くの人が重要な問題だと知ったことは大変な前進で、受動喫煙によって多くの人が命を落とすことがないよう、今後もさらに改善してほしいとされている。

①村の受動喫煙対策はどのようにされているか。

村長

①村有施設内は禁煙が徹底されているが、喫煙場所が受動喫煙を防止する状態になっていないところがある。学校施設では、3月1日から、保育園を含めて敷地内全面禁煙とし、施設を利用

する住民の皆さんにも協力を呼び掛けている。

②新庁舎は、施設内は当然禁煙とする。喫煙所は、体育館等周辺の施設も含めて受動喫煙とならないよう検討する。

再質問

敷地内全面禁煙とされている先生方や事務職員の喫煙者は、一日中喫煙できない状態でストレスが溜まらないか。保護者の反応はどうか。

教育長

先生方は「何とかやっております」という話で、保護者からの声は聞いていないが、教育場所での禁煙については、賛同されている方が多いのではないかと推測している。

2. 口利きの記録制度について

質問

口利きの記録制度とは、自治体の職員が、議員からの要望や働きかけなどを受けた時、議員の名前や内容、日時、その後の対応・状況などを文書に残して上司に報告し、庁内で共有する制度である。記録を残すことで、議員からの不当な口利きを未然に防ぎ、口利きがあつたとしても、行政運営への影響を最小限に抑える目的がある。村は口利きの記録制度を導入されているか。

村長

制度として導入はしていない。議員が、住民からの要望を受け、行政に対して提言すること自体は議員活動の一環であり、その都度対応することとしている。そのような相談や要望があつた場合、当然上司に相談し、特別なものについては記録として残している。住民から相談を受けた場合でも、記録に残すべき必要がある内容は記録し、残すこととしている。

再質問

議員は選挙で選ばれたことを理由に、行政は議員の言うことに従うべきだと考えがちである。議員と職員の間にある上下関係が口利きに結び付く背景があるとすれば、村では残した記録の全てを情報公開請求で見ることができるようになるべきと思われるが。

村長

不当な口利きや要望、特別な利益を誘導することが明らかな場合は、公表することになる。全ての要望や相談を公表することは、相談者のプライバシー等の問題も出てくるため、公開は慎重に考えた。

3. 木島平型教育について

質問

村は、保・小・中一貫教育の推進を図っているが、小学1年生は

6歳になってからという決まりがずっと続いている。5歳に引き上げて良いのでは。

教育長

◎日本では、少子・高齢化が加速度的に進み、世界ではグローバル化（地球規模化）が急速に進展している。一人ひとりの能力の伸長と日本を担う人材の質と量の充実と確保が大事になってきている。

◎情報技術の発展に伴い、ライフスタイルの変化が家庭や地域、学校に影響を与え、家庭や地域はさらに変容する可能性があると思われる。

◎子どもの身体の発達も早熟傾向が見られている昨今、満6歳になつてからではなく、5歳に引き下げ、子どもたちの伸びる潜在力をさらに早めに伸ばすことが肝要ではないか。

以上のことを背景に、平成25年に政府の「教育再生実行会議」でも、義務教育を5歳に引き下げ、現在の「6・3・3制」から「4・4・4制」の検討がされたようである。村では、さらに柔軟かつ効果的な教育を進めたいと考えている。5歳児の就学前教育と小学校教育との接続を意識した連携・教育も大事に考えていきたい。



吉川 昭 議員

1. スキー場の今シーズンの状況と今後について

質問

ゲレンデやリフトの外国語の標記と放送、ビタミネレストランの改修、スキー場線の除雪体制によるスリップの減少など、お客様に対して親切になっていてることを感じる。

新幹線の駅がある飯山エリアは、海外のお客様にはとても有名になつていてると聞く。本スキー場も数年前より1〜2名だった外国人のお客様が少しずつ増えていたが、今年は特に多く感じた。しかし、まだ全体の1パーセントにも満たないと感じている。

① 2月までの客数と売上減少の原因は把握しているか。

② 山頂の沢コース上部の段差がある登山道を小さく細くできないか。

③ 山頂パイオニアコースへ向かうリフト下を通過する部分をほぼ横に細い道を付け、雪のあるゲレンデまでゆっくり安全に出られるようにできないか。

④ シャトルバスの見直し、または

宣伝強化の必要は。

⑤ 第11リフト沿いのスノーマシンの効率向上は。(雪入れ、雪造りには費用はかかるが、投資できない一番の理由は雪が降らないこと)

⑥ 今後のリフト架け替えの予定と費用面の方法と工夫は。

村長

① 雪不足による約1週間のスキー場オープンが遅れが、2月まで響いた。3月に入り、客数共に増加傾向にある。雪の状況にもよるが、昨年並みかそれ以上になるものと期待している。

高木産業課長

① 2月末現在、入場者数3万8千人、昨年度比93・8%。売り上げ5千100万円、昨年度比90%。

② ツアーバス等の引換券が減少。地形の変更は国有林への手続きも必要。春以降の課題。

③ 積極的な検討が必要。関係者と協議して進める。

④ 昨年1月利用149人、3月末まで335人が利用。今年1月同数149人の状況。乗車率の向上必要。さらに露出を高める工夫を行っていく。

⑤ 今年は日本ケーブルよりレンタルも含め12台で対応。日本ケーブル製の性能が良い。ポンプ配管を更新する必要がある、検討していく。

⑥ スキー場運営検討会を組織してリフトの削減と既存ゲレンデを最大限利用できるよう検討している。31年度中に検討会の意見を示したい。財源は公営企業債等を予定。

再質問

① 一般のお客様は少なく感じる。3月に盛り返すのは大きな大会の前後による影響ではないか。

⑥ 第8スカイフォールリフト架け替えの際、下り線も乗車できるようにし、スキーを付けていないお客様も山頂リフトの見学ができるようにしてはどうか。晴れの日も降雪時も大自然を感じる事ができる。

村長

① 周囲からも大会運営に評価をいただき感謝している。反面、平日が空いており、日本人の観光スタイルを感じる。インバウンド等しっかり活用していく。

⑥ 山頂リフト見学利用の提案も参考に検討する。

2. 馬曲温泉の新源泉調査結果と今後について

質問

① 調査はこれで終わりか、これ以上の調査はしないのか。

② 本掘削の予定はどうか。

③ 温泉施設のリニューアル構想は。

④ 費用面はどのような予定か。

村長

村の大きな観光資源であり、維持発展は大きな課題である。

②、③の調査結果を踏まえて財政計画、温泉公園全体の構想も含めて検討していく。

高木産業課長

① 現施設への供給が目的。これ以上の調査は必要ない。

③ 30年以上経過し老朽化している。全体改修が必要な時期を迎えている。

④ 本掘削経費は約1億8千万円。財源は辺地債を想定。

再質問

④ 辺地債は2割負担か。温泉施設にも使えるか。

高木産業課長

④ 辺地債は2割である。馬曲温泉全体構想については収益事業。辺地債の適用は調査する。

※一般質問部分の会議録は、村の公式ウェブサイトでご覧いただけます。ウェブサイトのトップページの右側にある「行政一覧」の中から「木島平村議会」を選びます。

木島平村議会 ⇒ 会議録 ⇒ 一般質問 ⇒ 平成31年3月第1回木島平村議会定例会一般質問

の順に進んでください。